

諸國日々新集



紀及周叁見村

濱田某の娘まつい

本年十九才心潔さ

性質よく風の

柳のよきやう

あつてさうなぬ

さう言國小有

ていつくまゝ

尻の早くも大夜

今本新田某へ奉公

すうり又直に村久三良方へ

仲人の夫婦中一重つまゝ肌むと重る

妻の幾重とも数ええ定めぬ

さういふはさういふ賣女同やうの

いままふ其へて数算して久三良もろともみそて

追出さんと思ふもさういふさういふさういふと

近辺の若りの六七人もつてさういふ濱田某より

小舟といふさういふを呼出してさういふ入五六丁

もこい出さういふ冬良もさういふしまりを

まづりの手さういふ鬼がさういふさういふ

さういふと人あつちもさういふさういふさういふ

さういふやちのさういふさういふ筋なんど

酒さういふ過さういふ二日さういふのさういふ

少年愛

婦人まり



もちがさういふ
過ぎる食のれ
さういふのさういふ

つのか千島新田葎の中へ
追りかゝれて夜をさういふし

わが身をさういふハ先さういふ
柳櫻記

川傳 影福